

## 総括・模擬総選挙 2021 を終えて

模擬選挙推進ネットワーク 主席研究員 西村高志

### 総括ポイント 1 自公政権は勝ったのか？

まず、今回の選挙結果について、自民・公明の比例区での得票比率をみると

(今回)

(模擬結果) 自民 37.63%+公明 9.94% = 47.57%

(実際結果) 自民 34.66%+公明 12.38% = 47.04%

自公間で票差はあるものの、模擬と実際の結果はほぼ同じということが出た。(差異 0.53 ポイント)

ちなみに、過去の結果を振り返った場合

(2019 年参院選)

(模擬結果) 自民 24.35%+公明 9.83% = 34.18%

(実際結果) 自民 35.37%+公明 13.05% = 48.42%

(2017 年衆院選)

(模擬結果) 自民 36.05%+公明 7.50% = 43.55%

(実際結果) 自民 33.28%+公明 12.51% = 45.79%

17 年衆院選においては差異 2.24 ポイントで、19 年参院選では差異 14.24 ポイントであった。過去 2 回の国政選挙において比較しても、自民・公明の獲得率は最も高かった。

これまでの模擬選挙をおこなった傾向において、公明の模擬選挙での獲得率は実際の獲得率より低い傾向がある。しかし、実際結果と模擬結果においてその差は縮小傾向にある。

(17 年衆院選 5.01 ポイント→19 年参院選 3.22 ポイント→今回 2.44 ポイント)

今年は民主党から自民党が政権奪還し、第二次安倍内閣が発足した 2012 年から今年で 9 年が経た。今の中学・高校生の世代が 3 歳から 9 歳の頃に起きた自民政権は、ある意味「自民政権しか知らない」という世代でもあり、民主党が政権を取った 2009 年になると今の中学 1 年生は生まれていないもしくは生後すぐなのである。

それは今回の投票したアンケートの中で自民党を選んだもののなかに

- ・今までの政治が安定していたから。
- ・政権交代してほしくないから
- ・有名でなんか一番安心できる。

といったコメントがあった。政治に対して安定感を求める、もしくは積極的な政権交代を望まないという考えが大きいと言える。

こういう政治の安定、与党の勝利をもたらしたのはもちろんこれまでの成果や知名度というものが大きいですが、政治に対しての不満は決してないわけではない。

- ・自公の進まない政治には期待できない。だが、野党連合の安保外交にも期待できない。
- というコメントがあるものの、受け皿になりえなかった野党について次にみる。

## 総括ポイント 2 野党共闘について

今回の衆院選では野党間の候補者調整が行われ、小選挙区の立候補者が過去最低となった。ここでいう候補者調整はあくまでも小選挙区での話である。小選挙区で与党の大物議員を野党の候補が破ったというケースがいくつも見られたものの、比例では政党同士の対決になる。これまで模擬選挙推進ネットワークでは比例区を中心に見てきた。

比例区でみた場合ここで野党共闘に加わったもしくはこれまでの国会対策などで共闘を組んできた政党で比べてみることにする。

ちなみに今回の総選挙では、立憲・国民・共産・社民・れいわというグループで、19年参院選では(旧)立憲・(旧)国民・共産・社民・れいわというグループで、17年衆院選では(旧)立憲・(旧)希望・共産・社民という単純比較できないが一応の目安として見ていただきたい。

### 今回の結果

(模擬結果) 立憲 18.40%+国民 8.39%+共産 6.78%+社民 1.91%+れいわ 4.28%  
=39.76%

(実際結果) 立憲 20.00%+国民 4.51%+共産 7.25%+社民 1.77%+れいわ 3.86%  
=37.39%

### 19年参院選

(模擬結果) 立憲 16.89%+国民 8.91%+共産 8.98%+社民 3.38%+れいわ 2.71%  
=40.87%

(実際結果) 立憲 15.81%+国民 6.95%+共産 8.95%+社民 2.09%+れいわ 4.55%  
=38.35%

### 17年衆院選

(模擬結果) 立憲 12.40%+希望 19.25%+共産 9.00%+社民 2.77%  
=43.42%

(実際結果) 立憲 19.93%+希望 17.31%+共産 7.90%+社民 1.69%  
=46.83%

今回の実際の結果においてみた場合、立憲は旧国民・旧希望の系統の議員との合流によって議員数・組織人員は増えたものの票数にいたっては前回総選挙の旧立憲とほとんど変わっていないと言えるが模擬結果においても同じようなことが言えた。

野党を選んだ理由としても、

- ・ポートマッチとあった政党だから。
- ・Yahooでの相性診断で、マッチ度がよかった。
- ・YoutubeのCMで見て良さそうだった。

という、知名度が知られていない分、何のフィルターもなく考えを調べてみて初めて分かったというものがアンケートのなかでいくつか出てきた。

もともとと言われている、与野党の知名度やメディアでの取り上げられかたもここに出てきているのではないかと思う。

また、今回は無風選挙と言われており、与野党間の議席の減少も大きな幅で出なかった。それだけ、積極的な野党支持という風に現れなかった。

その中で、議席数が前回のおよそ4倍近く増えた維新について取り上げてみる

## 総括ポイント 3 維新旋風について

今回維新が大きく躍進した理由として、

- ・小選挙区において大阪府内で擁立した15人全員小選挙区当選
- ・比例でも近畿以外の前回振るわなかったブロックでも票数を伸ばしたこの2点が大きい。

ではこのことを模擬結果においてどうなのか見てみる。

### 今回の結果

(模擬結果) 維新 7.67%

(実際結果) 維新 14.01%

これだけ見ていると、なんと模擬結果は実際結果に比べて半分という数字にしかないことになる。ちなみに、過去2回の国政選挙の推移を比較するとこうなる。

### 19年参院選

(模擬結果) 維新 8.98%

(実際結果) 維新 9.80%

### 17年衆院選

(模擬結果) 維新 6.74%

(実際結果) 維新 6.07%

今回だけ極端に差が出たということになる。

今回の結果でもう少し詳しくみてみると、これまでの維新のイメージとしては、関西ローカルのイメージ（日本維新の会というよりも大阪維新の会のイメージが強い）ということではないかとも考え、衆院選の比例近畿ブロックの実際の数字と近畿の学校での比較してみた。ちなみに、前回衆院選で模擬選挙に参加した学校は中学・高校合わせて 7 校で有効投票数 1198 票、今回は 5 校で有効投票数は 682 票になる。

## 近畿ブロックにおける今回の結果

(模擬結果) 維新 87/682 12.85%

(実際結果) 維新 3,180,219/9,378,304 33.91%

## 近畿ブロックにおける 17 年衆院選

(模擬結果) 維新 126/1,198 10.51%

(実際結果) 維新 1,544,821/8,447,094 18.28%

維新の地盤とされている近畿においても、模擬選挙全体に比べて維新の比率は割高になっているものの、今回の差は大きく離れていることがわかる。これについては今後もいろいろと検証してみたい。